

# YASKAWA NEWS

YASKAWA NEWSは  
お客さまと安川電機を結ぶ  
PR情報誌です。



## i<sup>3</sup>-Mechatronicsの 実践で進化し続ける 次世代工場

やすかわくんが旅をする! 第1回  
ロボット第5工場

特集1  
P.2

長期経営計画「2035年ビジョン」  
中期経営計画「Dash 35」

特集2  
P.8

e-メカサイト  
全面リニューアルのお知らせ

特集3  
P.10



新製品



MOTOMAN-HD7/8、他  
P.12～

展示会



「FOOMA JAPAN 2026」、他  
P.18～

トピックス…………… P.15  
事例紹介…………… P.16  
豆大福先生に聞いてみようよ! …… P.21  
YASKAWA NEWSを、リニューアルしました!! P.21  
日本産業広告賞で振り返る安川電機…… P.22  
陸上部NEWS…………… P.23



今号から始まる連載企画「やすかわくんが旅をする!」は、全国の安川グループの拠点をぼくが訪ねて、みんなに紹介するコーナーでやす。第1回は「ロボット第5工場」。どんな最先端な技術があるか、じっくり見ていくでやすよ～!!

## ロボット第5工場

当社、八幡西事業所内に新設されたロボット第5工場は、安川電機のソリューションコンセプトである「i<sup>3</sup>-Mechatronics(アイキューブ メカトロニクス)」を実践する次世代工場です。自動化の拡大や変種変量生産への対応力を強化し、ロボット、サーボモータといった当社の中核製品を生産しています。

AIロボティクスとデータマネジメントを融合し、生産量の変動に左右されない安定した供給体制、柔軟なもののづくりと止まらない生産体制の構築、さらには品質向上を推進しています。現場のデータを基軸に「考え」、「動く」。進化し続ける次世代工場の姿をご紹介します。



i<sup>3</sup>-Mechatronicsの実践で  
進化し続ける次世代工場

## i<sup>3</sup>-Mechatronicsの実践

「i<sup>3</sup>-Mechatronics」を実践する次世代工場として、ロボット、サーボモータ、インバータといった当社の中核製品を数多く使用し、自動化の拡大や変種変量生産などへの対応力を強化しています。

### 「i<sup>3</sup>-Mechatronics」の3つのステップ

#### 1 integrated (統合的)

ロボットやサーボモータ、インバータなどを活用した自動化拡大と作業のデータ化

#### 2 intelligent (知能的)

データマネジメントによる機器・装置の稼働状況の見える化および分析・解析

#### 3 innovative (革新的)

データから得られた気付きによる効率化・知能化を通じたオペレーションの自律的改善





# これが、最先端の次世代工場！

AIロボットの活用によって、これまで人に頼っていた作業を自動化し、現場の作業データを生成します。データマネジメントにより、生成したデータを一元管理することで、全ての工程の状態をリアルタイムに把握します。

AIとデータマネジメントが融合した、自ら「考え」、「動く」、次世代の工場です。

名 称：八幡西事業所 ロボット第5工場

住 所：北九州市八幡西区黒崎城石2番1号

稼働開始：2026年7月に本格稼働開始

## サーボモータ生産工程

3F



## ロボット生産工程

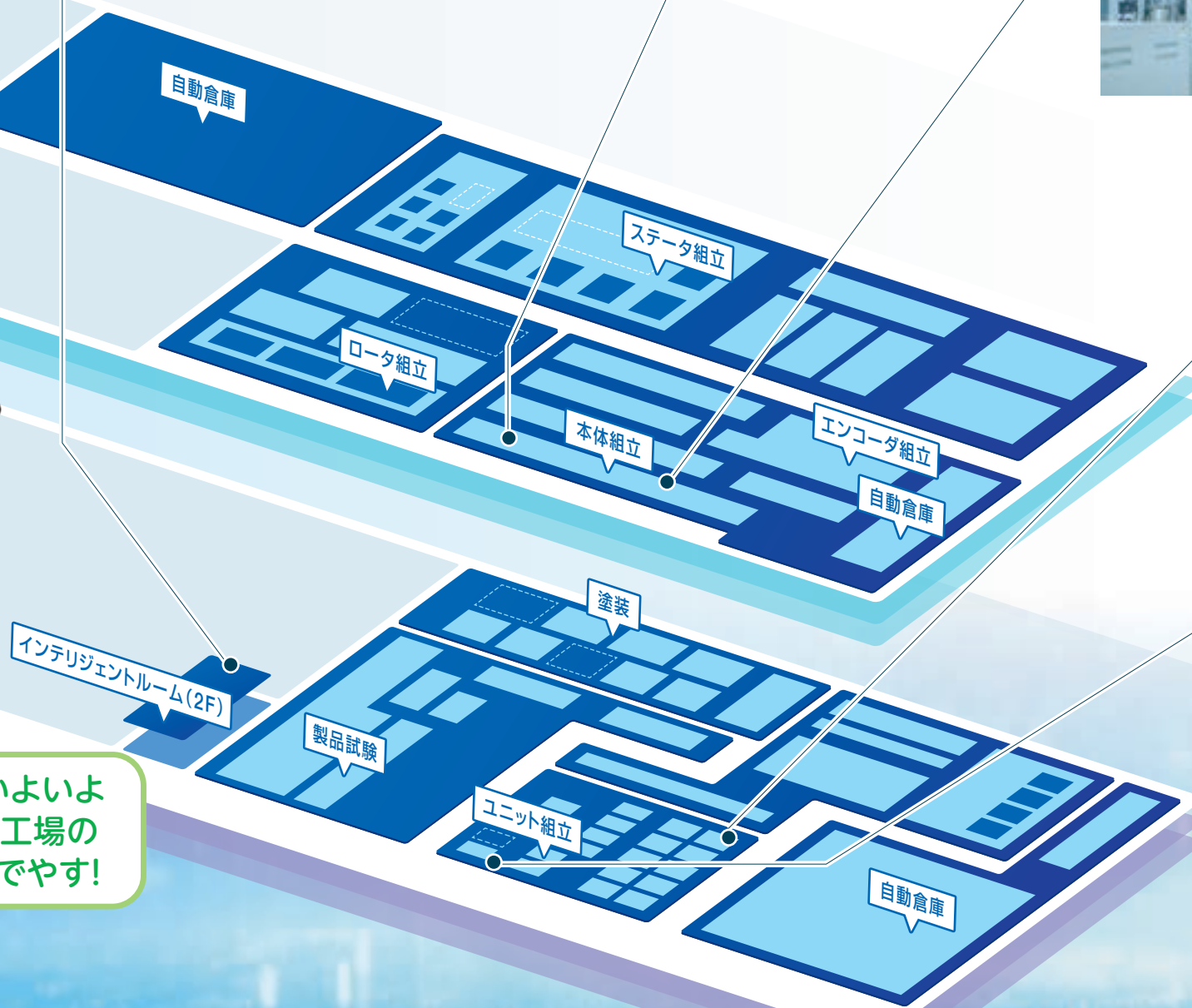
1F



## データマネジメントの活用事例



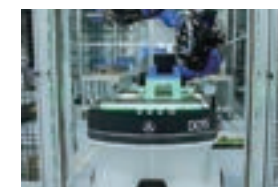
YCP (YASKAWA Cockpit) : 収集したデータを分析し、価値を創造  
YCS (YASKAWA Cell Simulator) : フロントローディングにより、現場作業時間を短縮



## 工程間のデータ連携による部品滞留の排除



工程間搬送では、稼働状況に応じてAGVで搬送先を振り分けています。これにより、装置の稼働率を高めるとともに、製造途中での部品滞留を排除しています。



## データマネジメントを実現するキーコンポーネント

YRMコントローラが装置・各工程単位で、時間軸の合ったデータをリアルタイムに収集しています。



YRMコントローラ

## AIロボティクスによる自動化領域拡大

AIロボット MOTOMAN NEXTによってフィジカルAIを実現し、自動化領域を拡大しています。



MOTOMAN NEXT

## 分散セルによる柔軟なものづくり

同じ作業が可能な複数の独立した作業ユニットセルを設置し、一つのセルで複数機種の生産を可能としています。この仕組みにより、生産を止めずに機能改善や新機種追加、生産量変動対応など変化に柔軟な対応ができます。



それでは、いよいよ  
ロボット第5工場の  
内部に潜入でやす！

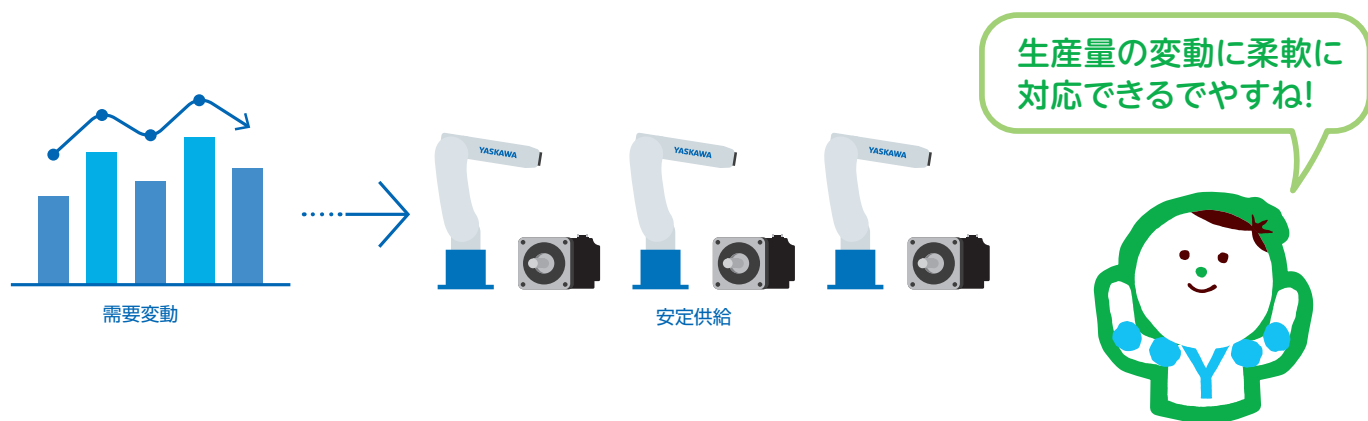


## ロボット第5工場の特長

### ① 量や品種の変動に左右されない安定した供給体制

ロボットとモータの一貫生産により、需要変動に強い供給体制を構築しています。また、タクトタイムの異なるロボットとモータを生産管理し、連動生産を実現。モータ生産からロボット生産までを一つの工場内でつなぐことで、生産量の変動に柔軟に対応できる体制を整えています。

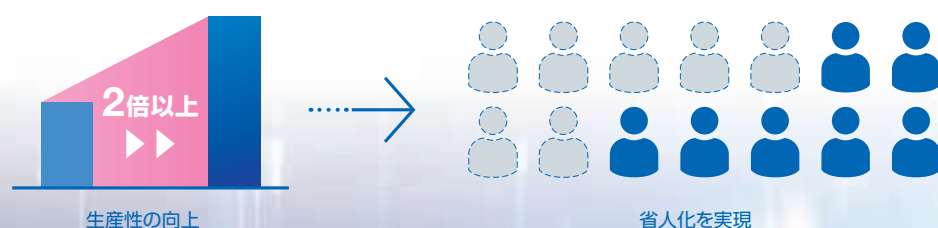
さらに、ロボット専用モータをスピーディーに設計・供給することで、ロボットの開発リードタイム短縮と性能強化にも貢献しています。



### ② AIロボティクスによる自動化領域の拡大

AIロボティクスによる自動化領域の拡大を進めています。AIロボティクスにより多様なワークへの対応を実現し、これまで人に頼っていた作業の自動化を推進しています。

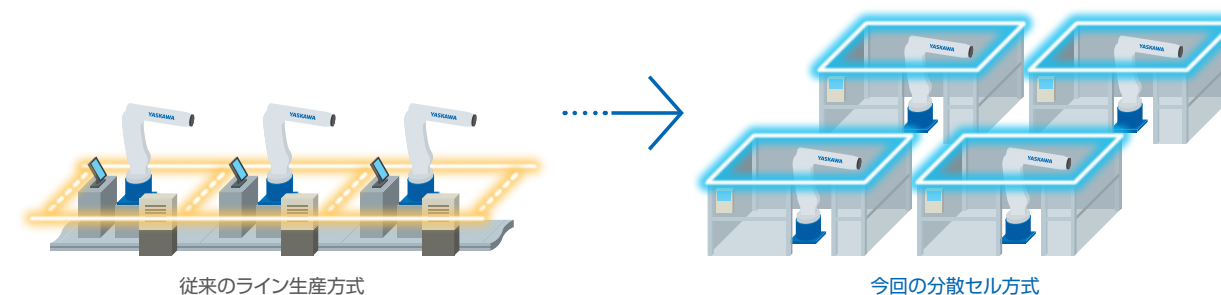
多様なワークに応じて自律的に動作を適応するAIロボティクスを生産設備へ適用し、人手作業のばらつきを最小化。安定した品質確保につなげています。その結果、生産性は従来比2倍以上に向上し、1人当たりの生産量も2倍以上を実現。省人化と生産性向上を両立しています。



### ③ 柔軟なものづくりと止まらない生産体制の構築

従来のライン生産方式から分散セル方式へ組立ラインを刷新しました。段取り替え不要の生産を拡大することで、多品種対応をより容易に実現。また、生産ラインを止めることなく機種追加や生産能力増強を可能としています。

さらに、複数セルへの分散により設備停止時も生産継続を実現。生産量の変動に応じて設備・要員を柔軟に割り当てできる体制を構築しています。



### ④ データマネジメントによる品質向上

ロボット構成部品の製造履歴や試験結果を「生い立ちデータ」として管理。ロボットの設計情報から生産設備までを「データでつながる工場」として、高度な品質管理を実現しています。

また、データマネジメントとして一元管理された情報により、全ての工程の状態をリアルタイムに把握。品質向上だけでなく、生産性改善にもつなげています。



### 進化し続ける次世代工場は凄かったでやす!

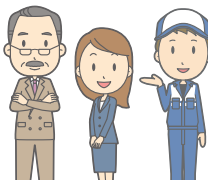


ロボット第5工場は、AIロボティクスとデータマネジメントを融合させ、工場が自ら「考え」、「動く」姿を実現。これからも「ロボット生産の各工程がデータでつながる工場」として、変種変量生産、品質向上、生産性向上・止まらない生産を追求していきます。

■ お問い合わせ先  
ロボット事業部 事業企画部 販売推進課  
TEL : 093-645-7715

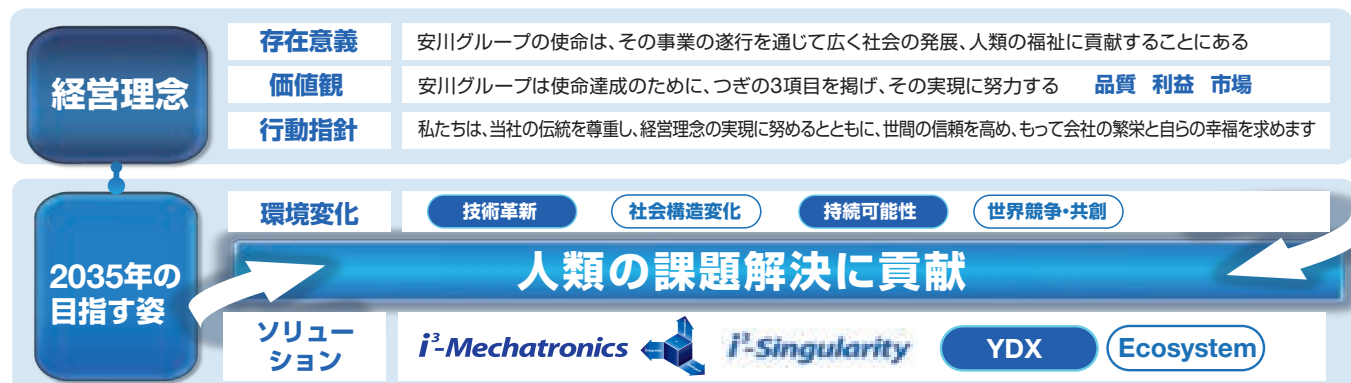
# 長期経営計画「2035年ビジョン」 中期経営計画「Dash 35」

安川電機は2026年度から新たな長期経営計画「2035年ビジョン(2026年度~2035年度)」と、その実現に向けた第一ステージとなる中期経営計画「Dash 35(2026年度~2029年度)」をスタートしました。創業以来培ってきた技術とソリューションコンセプト「i<sup>3</sup>-Mechatronics」<sup>※1</sup>を軸に、お客さまの経営課題の解決とサステナブルな社会の実現を目指します。



## 安川グループ経営理念と2035年の目指す姿

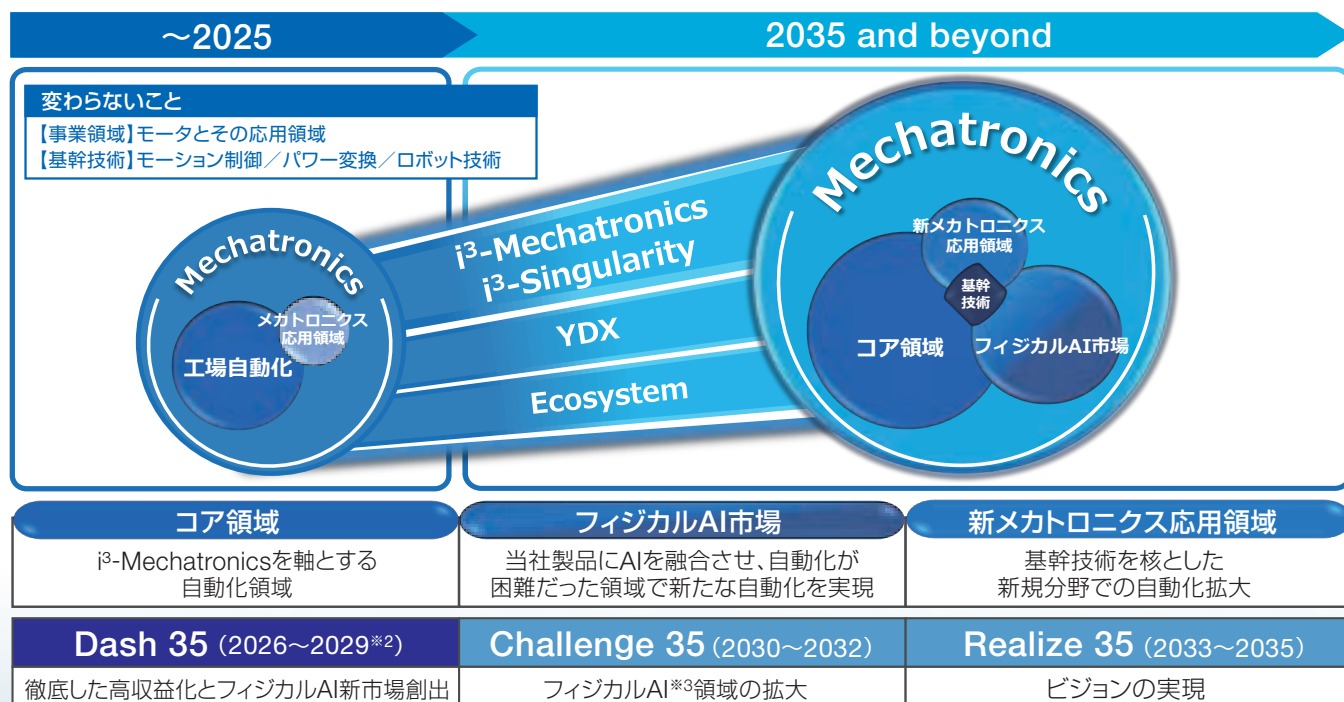
経営理念を实践し、革新的な技術により人類の課題解決に貢献する



※1：当社が1969年に提唱した「メカトロニクス(メカニズムとエレクトロニクスを融合した造語)」に3つの「i」(integrated:統合的、intelligent:知能的、innovative:革新的)を重ね合わせ、お客さまの経営課題の解決に寄与するソリューションコンセプト。

## 「2035年ビジョン」における「Dash 35」の位置付け

技術革新によりMechatronics領域を拡大し、社会の持続的な発展に貢献する



※2：2年×2年に層別・実行。「高収益化」:最初の2年重点化。

※3：「当社製品とAIを融合させることで、これまで自動化が困難であった領域でのユースケースを具現化するもの」と位置付け。

## 「Dash 35」基本方針

コア領域の徹底した高収益化とフィジカルAI技術により新市場を創出する

1. フィジカルAI市場の開拓
2. i<sup>3</sup>-Mechatronicsの実践拡大
3. 世界一にこだわる新製品開発
4. 新メカトロニクス応用領域の事業拡大
5. YDX<sup>※4</sup>の進化とi<sup>3</sup>-Singularity<sup>※5</sup>

※4：YASKAWA Digital Transformationの略。経営資源の可視化・一元化とその最適配置を目指した活動や、製品・サービス視点でのお客さまへの価値創出を実施。

※5：これまで取り組んできたi<sup>3</sup>-MechatronicsにAIを組み合わせることで、その実行力を拡張・飛躍させていく考え方。

## 財務目標<sup>※6</sup>

「営業利益」「営業利益率」を最重要KGIとして位置付けています。

| 指標                 | 2025年度実績                                                          | 2026年度見通し | 2027年度目標 | 2029年度目標 |
|--------------------|-------------------------------------------------------------------|-----------|----------|----------|
| 売上収益               | 5,421億円                                                           | 5,800億円   | 6,000億円  | 6,500億円  |
| 営業利益               | 473億円                                                             | 600億円     | 720億円    | 1,000億円  |
| 営業利益率              | 8.7%                                                              | 10.3%     | 12.0%    | 15.4%    |
| ROE <sup>※7</sup>  | 7.7%                                                              | 9.6%      | 10.0%    | 12.0%以上  |
| ROIC <sup>※8</sup> | 6.9%                                                              | 8.5%      | 9.0%     | 11.0%以上  |
| 配当性向               | 50.0%                                                             | 41.9%     | 40.0%    | 40.0%以上  |
| 2026年度~2029年度投資計画  | 累計投資額：2,500億円 (対売上収益比率 10%)<br>うち 設備投資：1,300億円<br>うち 戦略投資：1,200億円 |           |          |          |

※6：2026年5月外部発表時点。

※7：Return on Equity (自己資本利益率)=親会社の所有者に帰属する当期利益 ÷ ((前期末親会社所有者帰属持分+当期末親会社所有者帰属持分) ÷ 2)

※8：Return on Invested Capital (投下資本利益率)=親会社の所有者に帰属する当期利益 ÷ 投下資本

2035年ビジョン Dash 35



「2035年ビジョン」と  
「Dash 35」を詳しくチェック!

■ お問い合わせ先

コーポレートブランディング本部 広報・IR部 広報推進課  
TEL：093-588-3076



安川電機の製品・技術情報サイト

# e-メカサイト

## 全面リニューアルのお知らせ

安川電機の製品・技術情報サイト「e-メカサイト」が全面リニューアルいたします。

本リニューアルでは、より効率的に情報へアクセスできるよう改善を図るとともに、お客さまに新たな気付きや価値をご提供できるサイトへと進化しております。本誌では、リニューアルのポイントをいくつかピックアップしてご紹介いたします。

### 新しいe-メカサイトの特長

より  
早く

### 仕様検索機能、 資料検索を強化！

製品の細かな仕様から該当の形式を検索できる機能を搭載。資料検索は全面改良したことで、**より詳しく的確な情報をご提供**できるようになります。必要な情報へ、**スムーズかつ短時間でアクセス**いただける環境を実現します。

より  
便利に

### マイページ機能で 効率的に！

e-メカサイト会員限定の「マイページ」機能をリリースします。**資料のお気に入り登録やダウンロード履歴の閲覧、よく利用する機能へのクイックアクセス登録**など、各種情報へのアクセスが更に便利になる機能です。

※：会員登録・ログインが必要です。

ページデザインを一新し、  
スマートフォンからも  
より見やすくなりました



より  
深く

### お客さまの「課題」へ アプローチ！

新メニュー「ソリューション」では、生産現場でのお困りごとや経営課題など、お客さまの“コト”を深く掘り下げ、記事や動画で解決策をご提案します。

また、課題や業界別にコンテンツをお探しいただける機能も搭載します。



より  
的確に

### お問い合わせで 迷わない！

お問い合わせ窓口を整理し、各窓口でお受けしているお問い合わせの具体例を記載します。

**お客さまの目的に合ったお問い合わせ窓口**を的確にご案内し、必要なサービス・サポートへ迅速におつなぎします。



### 担当者コメント

「e-メカサイト」の全面リニューアルは、実に13年ぶりとなります。ユーザーの皆さまや社内から寄せられた多くのご意見・改善点をもとに、試行錯誤を重ねながら、新機能の搭載と利便性の向上に取り組んでまいりました。

今回のリニューアルを機に、当社製品・技術に関心をお持ちのお客さまとの関係を、サイトを通してこれまで以上に深めていきたいと考えております。是非サイトをご覧ください、進化した「e-メカサイト」をご体験ください！

また、メールマガジン(e-メカサイトNEWS)も引き続き発信します。製品・資料の最新情報や、お役立ち情報を入手いただけますので、ご購読のほどよろしくお願いいたします。



新機能を搭載し、利便性の向上に取り組んだ新しい「e-メカサイト」にご期待ください！

■ お問い合わせ先  
営業本部 事業計画部 基幹システム改革課  
TEL：03-5402-4599

# 搬送能力の拡大や使いやすさ、安全性を追求した人協働ロボット

## 人協働ロボット MOTOMAN-HC35



人協働ロボット  
MOTOMAN-HC35

多くのお客さまからご好評をいただいている人協働ロボットMOTOMAN-HC20DTPに代わり、動作領域や可搬質量の拡大に加え、設置性や使いやすさの向上を実現するMOTOMAN-HC35(可搬質量35kg、最大リーチ2030mm)の販売を2026年5月11日から開始しました。

スリムなアーム構造と本体質量の軽量化に加え、自社内製センサーの採用により省スペース性を実現するとともに、万が一の衝突時の応答性を向上させるなど、使いやすさと安全性の向上を実現しました。

MOTOMAN-HC35は、お客さまの生産性向上や製造コスト削減などのニーズにお応えします。



### 搬送能力が拡大、パレタイジング能力が向上

- ・可搬質量35 kg × ロングリーチ2030 mm
- ・全動作範囲、全姿勢で35 kg搬送に対応
- ・大型・重量物のデパレタイズやパレタイジング、高所への積付け作業に対応

### 高トルクねじ締め作業に対応

- ・高い手首軸モーメントにより、全動作範囲、全姿勢で200 N・m以上の高トルクのねじ締め付け作業が可能

### 自社内製センサーにより生産性と安全性を両立

- ・自社内製センサーにより、直感的でスムーズなハンドガイド操作を実現
- ・高い作業速度を実行しながらも、衝突時の力をより低く抑えることが可能なため、生産性と安全性の両立を実現

### スリム&コンパクトなデザインで設置の自由度が広がる

- ・スリムでコンパクトなアーム形状により周囲との干渉などが減少
- ・φ270の小フットプリントで狭い場所にも設置が可能
- ・軽量な本体質量でロボット架台などの設計が容易

(注) 人協働用途でご使用の場合にはリスクアセスメントを実施し、適切な安全対策をとる必要があります。

# ライフサイエンス市場・医薬品市場で薬品や小物容器搬送の自動化に貢献するロボット

## 衛生環境用ロボット MOTOMAN-HD7、HD8

クリーンルームへの対応や清掃性を向上させたMOTOMAN-HD7、HD8(可搬質量7kg、最大リーチ927mm/可搬質量8kg、最大リーチ727mm)の販売を2026年6月1日から開始しました。

ライフサイエンス市場や医薬品市場などの、高度な衛生管理が求められる環境では、長時間の作業が難しく、また危険な薬品を扱う場合もあり、自動化ニーズが高まっていました。

そこで当社は、このような高度な衛生管理が求められる環境に適した設計によるクリーンルームへの対応、清掃性を向上させたMOTOMAN-HD7、HD8を開発。お客さまの安全性確保や作業負荷の低減、効率化のニーズにお応えします。



MOTOMAN-HD8

MOTOMAN-HD7

### ISO 14644-1に基づくクリーンルームクラスに対応

保護等級は全軸IP69相当で優れた特殊コーティング※1

FDA認証※2の食品機械用グリースを採用

清掃しやすく汚れがたまりにくい滑らかな表面

EHEDG推奨事項※3に準拠したアクスルシーリング設計および材料



※1：指定洗浄液については、製品仕様書および取扱説明書に記載しています。

※2：アメリカ合衆国保健福祉省(HHS)に属する政府機関(Food and Drug Administration)が制定する認証です。

※3：食品および関連産業の衛生設計ガイドラインを制定する非営利財団:EHEDG(European Hygienic Engineering and Design Group)が推奨する事項です。



使いやすさ、安全性を追求した  
人協働ロボットをチェック!

■ お問い合わせ先  
ロボット事業部 事業企画部 製品戦略課  
TEL : 093-645-8134



高度な衛生管理が求められる環境に  
適した衛生環境用ロボットをチェック!

■ お問い合わせ先  
ロボット事業部 事業企画部 製品戦略課  
TEL : 093-645-8134



# 広い動作範囲と高負荷対応を両立した 大型ワーク搬送用ロボットのラインアップ拡充

## 大型ワーク搬送用ロボット MOTOMAN-GP215L、GP400L、GP700



MOTOMAN-GP215L

大型ワーク搬送用途に対応したMOTOMAN-GP215L、GP400L、GP700（可搬質量215kg、最大リーチ3114mm/可搬質量400kg、最大リーチ3718mm/可搬質量700kg、最大リーチ2845mm）の販売を2026年6月10日から開始しました。

本製品は、自動車業界をはじめとする各種製造現場において進むワークの大型化・重量化に対応し、広い動作範囲と高い手首負荷許容値を両立することで、搬送作業の効率化と自動化の拡大に貢献します。



MOTOMAN-GP400L

### GP215Lは広い動作範囲と高負荷対応を両立

- ・最大リーチ:3114mmの広い動作範囲
- ・手首許容値:従来クラス比最大44%向上

### GP400Lはトップクラスのリーチと高負荷仕様

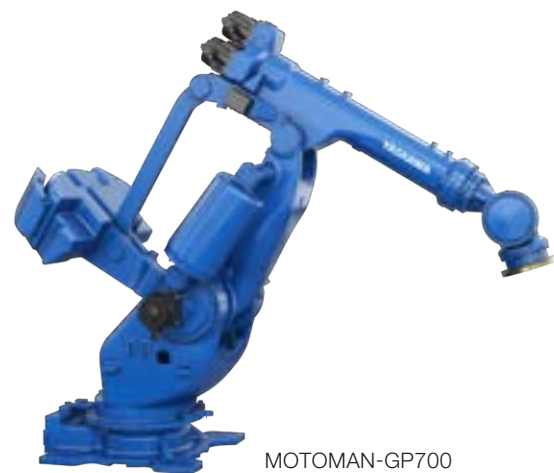
- ・最大リーチ:3718mmと従来機種に比べ200mm拡大
- ・手首許容値:従来クラス比最大110%向上

### GP700は重可搬に対応するトップクラスの高負荷仕様

- ・最大リーチ:2845mmと従来機種同等
- ・手首許容値:従来クラス比最大60%向上

### レイアウト性の向上と省スペース化

- ・コンパクト設計により干渉半径を最小化し設備レイアウトの設計自由度を向上
- ・生産ラインのスペースを効率的に使え、ライン長の短縮に貢献



MOTOMAN-GP700

ラインアップが拡充した  
大型ワーク搬送用ロボットをチェック!



■ お問い合わせ先  
ロボット事業部 事業企画部 製品戦略課  
TEL : 093-645-8134

# モーションフィールドネットワーク MECHATROLINKの普及と発展に取り組む

## MECHATROLINK協会 2026年度総会を開催

2026年6月5日(金)に、MECHATROLINK協会(MMA)の2026年度総会が、東京(秋葉原)のUDXギャラリーにて開催されました。

今年度から新たに就任した内山幹事長(株式会社安川電機モーションコントロール事業部長)による開会の挨拶に始まり、総会の部では、MMA事務局代表から2025年度の活動報告と、2026年度の活動計画の説明、続いてMMA中国支部による活動紹介が行われました。新製品紹介の部では、当社を含む4社が発表を行いました。後半

では基調講演、その後には懇親会が開催され、参加者同士の交流時間が設けられました。



### MECHATROLINK協会とは?

安川電機が開発・製品化したMECHATROLINKを世界に普及させるために、2003年にオープン化し発足された組織です。製品開発メンバーおよびユーザーで構成されています。安川電機を含む、幹事会社8社を中心に運営されており、約3,700社の会員企業が参画しています。

### MECHATROLINK協会 総会 プログラム

|                                          |                                                                                                              |                          |
|------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------|
| 1 MECHATROLINK協会幹事長 挨拶                   | 株式会社安川電機 モーションコントロール事業部長                                                                                     | 内山 孝弘                    |
| 2 MECHATROLINK協会活動報告・活動計画                | MECHATROLINK協会 事務局代表                                                                                         | 平沼 麻美子                   |
| 3 MECHATROLINK協会中国支部 活動紹介                | MECHATROLINK協会 中国支部                                                                                          | 高 其敏                     |
| 4 新製品紹介                                  | ・株式会社システック<br>・神港テクノス株式会社<br>・株式会社安川電機<br>・モベンス株式会社                                                          |                          |
| 5 基調講演:<br>「ソフトバンクが進める次世代社会インフラとフィジカルAI」 | ソフトバンク株式会社<br>共通プラットフォーム開発本部 先端AIプラットフォーム統括部 統括部長<br>技術統括 プロダクトR&D本部 先端技術開発統括部<br>先端技術高度化推進部 次世代ネットワーク開発課 課長 | 山科 瞬 様<br>小林 謙吾 様        |
| 6 特別講演:<br>「人とつながりが生み出す、これからのFAの可能性」     | 株式会社アイ・エル・シー 中日本ビジネス部 部長<br>ハイテックオートメーション合同会社 テクニカルサポートマネージャー                                                | 高橋 智也 様<br>Chris Chung 様 |

## ものづくりワールド[大阪] 機械要素技術展 出展のご案内

2026年10月7日(水)~10月9日(金)にインテックス大阪にて開催される、ものづくりワールド[大阪]の「機械要素技術展」に出展します。

MMAブースでは、ものづくりの現場を支えるソリューション技術「MECHATROLINK」と導入メリットをデモ機を使って詳しくご紹介します。

また、当社を含む協賛企業による展示と説明コーナーも設置されますので、是非ご来場をお待ちしております。

**第29回 ものづくりワールド 大阪**

会期 10月7日(水)~9日(金)10:00~17:00  
会場 インテックス大阪 **ブース** ホール5 31-40  
主催 RX Japan株式会社

今回行われた総会の  
詳しい様子をチェック!



■ お問い合わせ先  
モーションコントロール事業部 ソリューション技術部 パートナ拡大推進課  
TEL : 04-2962-6359



# 1t可搬ロボットで実現するスマート搬送 ～安川電機 中間工場～

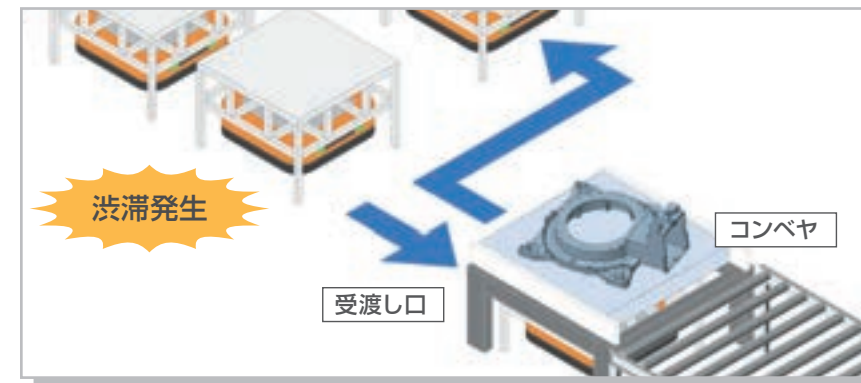
## 自動倉庫からの受渡し工程を高効率化

当社の中間工場（福岡県中間市）では、ロボット製造部品の搬送に1t可搬スカラロボットを用いることで、自動倉庫からのワーク受渡し工程の高効率化を実現しています。今回は、コンベヤからAGVにワークを移載する搬送構成にロボットを導入した理由とメリットをご紹介します。



### 課題

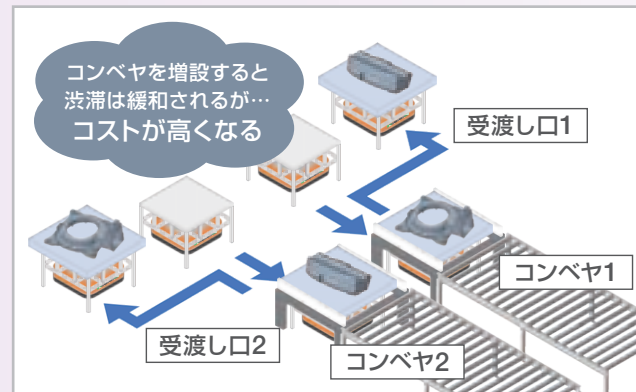
#### コンベヤとAGV間の渋滞を緩和したい



当社中間工場では、大型機種を含む複数のロボットを生産しており、必要なワークはパレットに載せられて自動倉庫へ保管されています。出庫後のワークはコンベヤで搬送され、末端の受渡し口からAGVへ移載して生産ラインへ供給していました。しかし、受渡し口が1箇所しかないためAGVが渋滞し、運用上の課題が生じていました。

### 1. コンベヤを増設することなく渋滞を緩和したい

AGVの渋滞を解消するには、コンベヤを増設して受渡し口を増やす方法が現実的でした。しかし、コンベヤの機材追加や設置スペースの確保に加え、既存コンベヤの分岐改造や上位システムのプログラム変更が必要となり、総コストが増加します。こうした背景から、コンベヤ増設と同等の効果を、より低コストで実現することが課題でした。



### 2. 1t近い可搬性能を持ったロボットが必要

コンベヤ増設の代わりに、ロボットを用いてコンベヤから複数の受渡し口へワークを振り分ける方法を検討しました。コンベヤの増設と比較して、既存のコンベヤの改造や、上位システムのプログラム変更をほとんど行わずに少ない機材で構築できるため、より低いコストで受渡し口を増やすことができます。しかし、搬送するワークの中には800kgを超える重量物もあるため、実現するには1t近い可搬性能を持ったロボットが必要でした。



### ソリューション

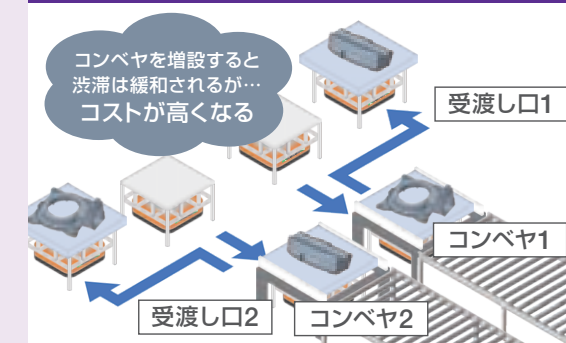
#### 1t可搬スカラロボットMOTOMAN-ME1000で受渡しを効率化

課題解決のため、当社の1t可搬スカラロボット「MOTOMAN-ME1000」を用いたワーク受渡し工程を構築しました。また、2つの課題を以下のように解決しています。

### 1. ロボット導入でコストを抑えつつ、受渡し口増加を実現し渋滞を緩和

コンベヤ増設より低コストでAGV渋滞を解消するため、当社は1t可搬スカラロボット「MOTOMAN-ME1000」を導入。コンベヤから流れてくるワークを複数のAGV受渡し口へ振り分けられるようになり、コンベヤを増設せずに受渡し口を2箇所へ拡張できました。その結果、AGVが分散して待機時間が短縮され、渋滞が緩和されました。さらに、受渡し口の追加や位置変更があってもロボットの動き方を調整するだけで対応できるため、拡張性にも優れた構成となりました。

#### コンベヤ増設の場合



#### MOTOMAN-ME1000を導入した場合



### 2. 1tの可搬性能を持ち、重量物の水平搬送に適したロボットを採用

今回導入したMOTOMAN-ME1000は最大1tの可搬性能を持つため、800kgを超えるようなワークでも搬送することが可能です。また、スカラ構造のロボットであるため、水平を保った搬送に適しており、パレットに載せられただけのワークでも安全に運ぶことができます。

### 今回紹介した事例に使われている製品

#### 重可搬スカラロボット MOTOMAN-ME1000

MOTOMAN-ME1000は、他に類をみない重量物可搬のスカラロボットです。水平搬送に特化することで、同可搬クラスの垂直多関節ロボットと比較して省スペース・軽量・省エネを実現。近年大型化が進むEVバッテリー搬送にも対応し、様々な製造・搬送工程においてカーボンニュートラルな生産ライン構築をサポートします。

■ 可搬質量：1,000kg ■ 最大リーチ：2,440mm



MOTOMAN-ME1000の  
詳しい仕様をチェック!

■ お問い合わせ先  
ロボット事業部 事業企画部 販売推進課  
TEL：093-645-7715



# 生産性向上、品質安定化、省人化に貢献する 最新のソリューションを展示

2026国際ウエルディングショー

展示会出展案内

## i<sup>3</sup>-Mechatronicsで 新たな価値をリアルな“かたち”に

integrated

統合的

intelligent

知能的

innovative

革新的

9月16日(水)～19日(土)の4日間、  
東京ビッグサイトで開催される「2026国際ウエルディングショー」に出展します。

これまで培ってきたモーションコントロール技術を基盤に、溶接・接合工程における生産性向上、品質安定化、省人化に貢献する最新のソリューションをご紹介します。多様化するお客さまの課題解決に向けたご提案をご用意しておりますので、安川電機ブースへお立ち寄りくださいますようお願いいたします。

### 多様化する接合ニーズに対応するYASKAWAの接合ソリューション



アーク溶接ロボット  
MOTOMAN-AR1440



中空アームスポット溶接ロボット  
MOTOMAN-SP110HL



人協働AIロボット  
MOTOMAN NEXT-NHC12



デジタルガルバノスキャナ  
MIRAMOTION

### 主な出展製品・ソリューション

- 工程をつなぎ、品質をつくる。次世代スマート溶接電源
- MOTOMAN NEXT 熟練型アーク溶接
- 技能伝承、人手不足解消に貢献 ティーチングレス溶接
- スポット溶接現場の人手不足と技術継承への対応
- レーザー×ガルバノ×モーション制御で次世代レーザーアプリに対応
- ロボット導入後のお悩みをMOTOMAN契約サービスで解決

最新のソリューションを紹介する  
展示会の詳しい内容をチェック!



■ お問い合わせ先  
ロボット事業部 事業企画部 販売推進課  
TEL : 093-645-7715

# 新メカトロニクス応用領域で AIロボティクスによる食品分野への自動化提案

FOOMA JAPAN 2026

展示会出展レポート

## 食を大変革

多様なパートナーとのエコシステム構築で  
持続可能な社会の実現に貢献

6月2日(火)～5日(金)の4日間、  
東京ビッグサイトで開催された「FOOMA JAPAN 2026」に出展しました。

当社は、ソリューションコンセプトi<sup>3</sup>-Mechatronicsを基軸に、モーション制御技術とAIによる認識・判断を融合したAIロボティクスを展開。今回は、AIロボットMOTOMAN NEXTを通じて、“Easy to Setup”(短期間で立上げ)、“Easy to Use”(現場で扱える)の両立を実現し、人の判断に依存していた工程においても、継続的な運用が可能な自動化をご提案。

会場では、ソフトウェア、学習済みAIモデル、GUIをパッケージ化したAIロボティクス技術をはじめ、様々なご相談やご質問をいただき、皆さまの高い関心を実感いたしました。

今後とも、皆さまの課題に寄り添うソリューションを提供してまいります。



中食トッピング

AIロボットに充填ノズルを持たせ、見本写真と充填量の作業指示だけで弁当にソースを充填する様子をご紹介します。実際の弁当をカメラで撮像、未充填箇所をAIが認識し、対象物の状態に応じて判断・動作を自律的にを行います。



球状青果の向きをそろえる

AIロボットがコンテナにばら積みされたりんごを取り出し、向きをそろえて配置する様子をご紹介します。学習済みAIモデルを使用したAIビジョンでりんごの特徴を認識し、パスプランニング機能で最適な動作経路を自動生成します。

### その他 出展製品



人協働パレタイズパッケージ  
「CoboPal3」  
MOTOMAN-HC35



ラボオートメーションシステム  
「Y's-SF SmartLab」  
MOTOMAN-HD7



植物工場システム  
「アグリネ」



i<sup>3</sup>-Mechatronics コア技術  
「モーション制御・モータドライブ」

展示品の  
詳しい内容をチェック



■ お問い合わせ先  
営業本部 食品農業事業開発営業部  
TEL : 03-5402-4579



# これまで自動化が困難とされてきた領域に向け最新ソリューションを展示。

ROBOT TECHNOLOGY JAPAN 2026

展示会出展レポート

## i<sup>3</sup>-Mechatronicsで新たな価値をリアルな“かたち”に

6月11日(木)～13日(土)の3日間、Aichi Sky Expo(愛知県国際展示場)で開催された「ROBOT TECHNOLOGY JAPAN 2026」に出展しました。

昨今、フィジカルAIという言葉が注目を集める中、当社ブースではAIロボット「MOTOMAN NEXT」を活用したAIロボティクスの取組みをご紹介します。AIロボットの社会実装の事例として、組立領域、梱包作業、段ボールの開梱といったソリューションをご提案しました。また、中部地区を中心とした製造業のお客さまに対し、設計データの活用により生産変動へ柔軟に対応可能なスポット溶接セルや、人協働ロボットによるスマートパレタイズなどを提案することで、新たな技術によって未自動化領域の自動化を実現し、人手不足や品質課題の解決につながるものづくりの姿をお伝えしました。



変種変量に対応するAIロボット組立セル

AIロボットとYCS\*による動作の自動生成により、部品の長さや組合せの違いに柔軟に対応できる様子をご紹介します。細長い紙の筒やジョイントを組み合わせ、複数の家具の組立てを実演しました。

※：YCS:YASKAWA Cell Simulator



自動車部品の生産変動に対応するフレキシブルスポット溶接セル

設計情報から溶接動作を自動生成することで、品種の追加・変更時でもスムーズに立上げ可能な仕組みをご紹介します。ドアフレームやホイールハウスなど異なるワークにも柔軟に対応する様子を実演しました。



双腕AIロボットによる梱包作業の自動化



AIロボットによる原材料投入ソリューション



AIロボットによる物流工程自動化ソリューション

AIロボティクスの取組みを紹介した展示会の詳しい様子をチェック!



■ お問い合わせ先  
ロボット事業部 事業企画部 販売推進課  
TEL: 093-645-7715

## 豆大福先生に聞いてみようよ!

豆大福が大好きな通称“豆大福先生”が、安川電機の製品にまつわる疑問や業界のトレンドを分かりやすく解説します。



### 第1回 データ収集・活用事例

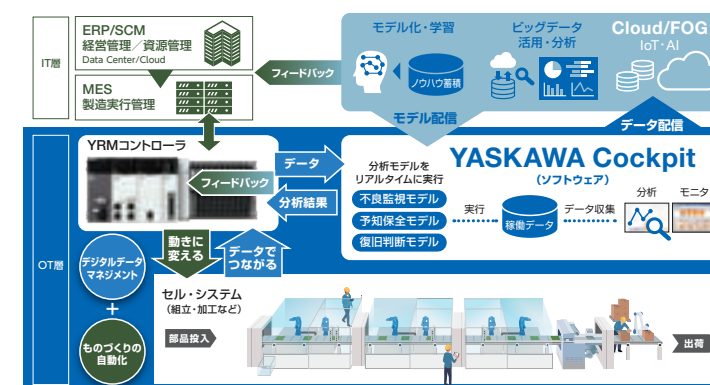
安川電機は、「i<sup>3</sup>-Mechatronics」を提唱し、デジタルデータソリューションの提供を進めています。その中核を担っているのが、工場のデータ収集・活用による生産性向上を実現するソフトウェアツール「YASKAWACockpit(以下、YCP)」です。安川電機はi<sup>3</sup>-Mechatronicsの実現に向け、生産現場の“intelligent(知能的)”で“innovative(革新的)”な状態を実現するため、まず“integrated(統合)”を3つ

のステップで実行します。ものづくり自動化のための「生産現場のコンポーネント・プロセス統合」、自動化された生産現場のデータ活用のため「生産現場がデータでつながる」状態の構築、そして必要に応じてデータを更に上位のシステムへ配信するための「FAとITとの連携」です。

YCPはこの“integrated(統合)”の中で、自動化された生産現場のデータを収集・蓄積し、上位システムと連携してAIによる学習やビッグデータ解析に現場のデータを活用できる状態にする役割を担っています。



### データを収集して何をする? YASKAWA Cockpit の使用事例



- ① ロボットの減速機の故障時期を予知
- ② 生産ラインの異常判断
- ③ 寿命部品の“予知”保全に活用

安川電機では生産現場の様々なシーンで活躍できる機能の拡充を進め、皆さまそれぞれの生産現場に最適なYCPを皆さまと一緒に作り上げることで、データを活用したものづくりの進化をサポートします。



データを活用した進化を続ける、YCPの活用事例をチェック!

■ お問い合わせ先  
営業本部 事業開拓部 事業開拓第2課  
TEL: 03-5402-4507

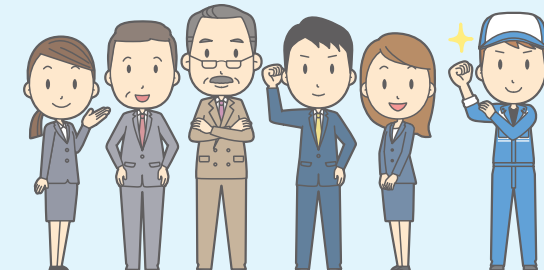
## YASKAWA NEWSを、リニューアルしました!!



「YASKAWA NEWS」は、お客さまと安川電機を結ぶ広報誌として、2026年夏号から誌面をリニューアルしました。読者アンケートで寄せられたご意見をもとに、納入事例やAI・i<sup>3</sup>-Mechatronicsに関する情報を拡充するとともに、企業活動やカーボンニュートラルへの取組み、新たな連載企画など、より親しみやすく読み応えのある内容へ刷新します。

さらに、誌面デザインを一新し、Webサイトや動画コンテンツとの連携も強化。冊子を起点に、より多くの情報と出会える広報誌を目指します。

これからの「YASKAWA NEWS」に是非ご期待ください。





# 日本産業広告賞で振り返る 安川電機

産業広告の健全な発展と質的向上を図る目的として、日刊工業新聞社が主催で開催している「日本産業広告賞」。1966年に制定された、日本を代表する産業広告賞です。このコーナーでは、日本産業広告賞において、当社が受賞した作品を振り返るとともに、掲載された製品をご紹介します。記念すべき連載第1回の製品は、AIロボット「MOTOMAN NEXT」です。

連載  
第1回

第60回 日本産業広告賞 (2025年)

情報誌部門 第一席

YASKAWA

## まだ、人にしかできないと 思っていた領域へ

洗浄前の医療器具には、命を支える現場の緊張と責任が宿っています。形や状態の異なる器具が混在し、洗浄装置への投入と取出しを優先しながら、合間で仕分けを行う。状況は常に変化する。柔軟な判断が求められる。だからこそ、人の手に委ねられてきた仕事です。

自律ロボット「MOTOMAN NEXT」は、器具の種類や状態を見分け、仕分けから洗浄装置への投入・取出しまでを担います。人の負担を軽減し、感染リスクとヒューマンエラーを防ぐ。それは、医療現場に“もう一つの信頼できる手”を加えるということ。

人にしかできないと思われていた領域へ、私たちはAIとロボティクスで挑み続けます。

### MOTOMAN NEXT

ロボティクスとの融合により、AIは「考える」だけでなく、「動き」「感じ」「適応する」存在へと進化を遂げつつあります。MOTOMAN NEXTは、AIとロボット制御技術が融合した、革新的なソリューションを届けるオープンプラットフォームです。AIやセンサーと連携した自律制御ユニットにより、環境変化をリアルタイムで認識・判断。従来は人の判断や経験に頼っていた工程においても、安定した自動化が可能となり、生産性と柔軟性の両立を実現します。

詳しくは  
MOTOMAN NEXT  
特設サイトへ



株式会社 安川電機

東京支社 東京都港区南1-16-1 ニューピア竹芝サウスウイング6F 〒105-6891 TEL (03) 5402-4502  
製品技術情報サイト <http://www.e-mechatronics.com> オフラインサイト <https://www.yaskawa.co.jp>

### 審査員選評

テレビドラマでよく見る病院の手術器具を慎重に、丁寧に扱っている人物とロボットのビジュアル。「まだ、人にしかできないと思っていた領域(こと)へ」のヘッドライン。形や状態の異なる医療器具の洗浄は人に委ねられてきたとのこと。一方で人の負担を減らし、感染リスクとヒューマンエラーを防ぐという課題に対して、同社の「MOTOMANNEXT」が課題解決をしてくれると訴求した作品である。人とロボットの対比を見開きで見せることで、頭の中にすんなり入ってくる内容となっている。



AIロボット MOTOMAN NEXT

多品種少量生産、農林水産、サービス、医療・介護など、対象や環境が絶えず変化し、経験や感覚に基づく判断が求められる領域では、人が作業を担い続けてきました。

MOTOMAN NEXTは、このような変化する現場を自動化するために、周囲の状況を認識・判断し、動作を計画・実行する機能を標準搭載しています。さらにAIをリアルタイムに実行するためのGPUをロボットコントローラに内蔵することで、ロボット1台というシンプルな構成でフィジカルAIを実現しました。

また、オープンプラットフォームとなっており、最新のAI技術との連携が容易で、進化する技術を柔軟に活用でき、フィジカルAIの社会実装を加速させます。

人にしかできないと思っていた  
作業をこなすAIロボットをチェック!



### ■ お問い合わせ先

ロボット事業部 事業企画部 販売推進課  
TEL : 093-645-7715

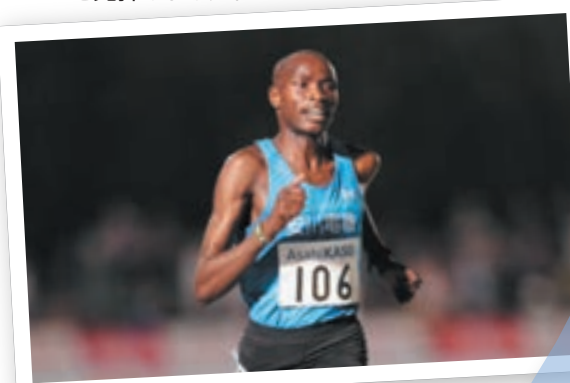
# 陸上部 NEWS



新緑の風が心地よく吹き抜ける季節となり、春のトラックシーズンが開幕。本年度入社した菅野裕二郎選手が5000mの自己記録を2度も更新する会心の走りを見せました。

平島龍斗選手は持ち前のスピードを遺憾なく発揮し、5月31日に開催されたNITTAIDAI Challenge Gamesの5000mmで安川電機歴代5位の記録を叩き出しました。

吉中祐太選手は5月23日に開催された第69回九州実業団陸上競技選手権大会の1500mに出場し、安川電機歴代4位の記録で全体3位と躍進しました。同レースに出場した入社3年目の九嶋恵舜選手も、ラスト500mからのロングスパートで会場を沸かせ、自己記録を大きく更新する走りを披露しました。また、昨年度チームに加入したキプタム ヴィクター選手が5月4日に開催されたゴールデンゲームズinのべおかにて、自己記録を10秒以上更新するパフォーマンスを発揮しました。



ゴールデンゲームズinのべおかにて、自己記録を10秒以上更新するパフォーマンスを発揮したキプタム ヴィクター選手



本年度入社した菅野裕二郎選手は、早くも5000mの自己記録を2度も更新する会心の走りを見せている

6月12日～14日に開催された第110回日本陸上競技選手権大会には、和田稜選手、漆畑瑠人選手、吉中祐太選手の3名が5000mに出場しました。3名とも惜しくも決勝には進めなかったものの、自らの課題を再認識できたレースでした。

今後は夏の走り込みを行い、秋口のレースに備えます。引き続き選手の応援をよろしくお願いします。

※本記事は春季トラックレース終了時点(6月末時点)の競技結果をもとに作成しています。

NITTAIDAI Challenge Gamesの  
5000mで安川電機歴代5位の記録を  
叩き出した平島龍斗選手



## 全日本実業団対抗駅伝競走大会 (ニューイヤー駅伝) の統一予選会について

ニューイヤー駅伝はこれまで各地区の予選会を勝ち抜いたチームが本戦の出場権を獲得していましたが、大会改革の一環として2027年からシード制と全国統一予選会を導入することが決まりました。



### 全国統一予選会について

開催地：愛知県・田原市  
開催日：2027年秋(詳細は未定)

従来の地区予選会を一本化し、全国の実業団チームが同じレースで出場権を争う方式です。2027年ニューイヤー駅伝から、上位チームにはシード権が与えられ、シード権外のチームが全国統一予選会に出場することになります。



詳しいスケジュールや大会結果を  
陸上部公式サイトでチェック!





人が当たり前にこなしている作業がある。

見て、触れて、力を加減しながら整える。

安川電機は、長年培ってきたロボット制御技術とフイジカルAIの融合によって、

これまで自動化が難しかった領域へ挑戦しています。

MOTOMAN NEXTは、人なら当たり前に行う梱包作業を自動化。

製品を包み、箱に収め、テープで閉じるところまで自然に。

双腕ロボットの自在性が、人と同じ環境で、人のような作業を可能にする。

これまで人の手に委ねるしかなかった作業に。

MOTOMAN NEXTは、新たな選択肢を示します。



株式会社 安川電機

〒808-0064 北九州市八幡西区黒崎城石2番1号 TEL (093) 645-7703 FAX (093) 645-7802  
【オンラインサイト】<http://www.yaskawa.co.jp>【製品・技術情報サイト】<http://www.e-mechtronics.com>

MOTOMAN NEXT

MOTOMAN NEXT 特設サイト

